

16. 近代橋本遊郭の様相と楼主家族に関する報告

—聞き取り調査を中心に—

高橋日向

1. はじめに

八幡市橋本の一帯にはかつて橋本遊郭が存在した。昭和 33 年（1958）に売春防止法が施行され、遊郭は終わりを迎えたが、橋本の町には今もなお近代妓楼建築が残る。

弊学による橋本遊郭調査は 2020 年頃より始まり、2021 年度は住民への聞き取り調査、アルバムや遊客帳の整理等を行った。本稿では、昭和 18 年（1943）生まれの奥西房子氏への聞き取り調査成果を報告する。歴史好きだった母親の影響から橋本の歴史に明るく、近代橋本遊郭と橋本の様相を調査する上で、適切なインフォーマントを得ることができた。

調査日：2021 年 6 月 14 日

調査場所：京都府八幡市橋本小金川町奥西家住宅（写真 1）

調査者：竹中友里代（特任講師）、芝野有純（博士前期課程 2 回生）、高橋日向（3 回生）

2. 奥西家について

(1) 奥西家概要

江戸時代末期、奥西家初代松之助は岩田村より橋本に移住し、料理屋を営み馬術の名手として名を馳せていた。慶応 4 年（1868）鳥羽伏見の戦いの戦禍を受け衰退した橋本を復興するため、橋本遊郭の公娼化に尽力し、明治 20 年（1887）に組織された貸座敷・芸妓・娼妓・引手茶屋・紹介業の五業組合代表を務めた。彼の功績は、2021 年 9 月 8 日に行った奥西家墓碑銘調査においても確認できる。松之助の弟猪之助は大阪の新町で料理旅館を営んでいたが、奥西家の隣に庭園をそなえた小宅があった。後に売却され、昭和 10 年（1935）に三軒楼が建てられた。

子のいなかった松之助は 2 代目、3 代目に養女を迎え入れた。大正 2 年（1913）、祖母は八幡町長を務めた有力者との間に房子氏の母を生んだ。その後、養子縁組で娘婿を迎え、房子氏が生まれた。奥西家は代々女系である。

(2) 奥西家と妓楼経営

現在、房子氏が暮らす住宅（以下、奥西家住宅）は昭和 6 年（1931）頃に新築したものである。父の婿入り以前から、祖母と母は通りに面した建物を他の楼主に貸し出し、家賃収入を得て、中庭の奥の居宅で生活していた（写真 2）。

父は徳島県出身で守口署の警察官から憲兵になり、昭和 21 年（1946）、GHQ の指令による公職追放を受け、職を失った。奥西家住宅は他の楼主に貸していたため、当時売りに出されていた建物を購入し、生活のためやむなく自らも妓楼を営むようになった。なお、この別宅は借地のため、老朽化により 5、6 年前に解体された。

当時、両親が今後の身の振り方について悩み、小舟で大谷川に乗り出したところ、天秤棒が流れてきた。父は天秤棒を拾えたら妓楼経営を始め、拾えなかったら枚方に移住して別の仕事をするかの賭けをした。この賭けに用いられた天秤棒は父の苦悩の証として今も奥西家で保管されている（写真3）。

3. 近代橋本遊郭の展開と妓楼経営の実態

(1) 橋本遊郭の隆盛

橋本では大正期を迎えるまで妓楼はそれほど存在せず、明治43年（1910）の京阪電車開通により、大阪からの移住者の増加とともに次第に妓楼が建ち並ぶようになった。「しんだちすじ新建筋」と呼ばれる通りもでき、橋本遊郭は昭和期に最盛期を迎えた。夕方には男川と呼ばれ、賑わいを見せた。

(2) 妓楼経営の内情

妓楼経営が本格化する前より、橋本の町には芸妓が存在した。その後、遊郭の発展とともに娼妓が増加して、芸妓が減少した。

楼主には読み書きができない者もおおり、帳場を雇い遊客帳等を記録させていた。先の遊客帳整理時に見られた「仲居」は「ひっこさん」であろう。「ひっこさん」は客と娼妓を繋ぐ役割を担っており、老齢の女性が住み込みではなく、通いで働いていた。

他には、楼主に代わり九州や四国に出向き娼妓を確保していた紹介人がいたことや組合事務所¹に検査所が併設されていたことなど明快な口調で語られた。

4. おわりに

現在、橋本の町は妓楼建築の内部公開やリノベーション活用等で多くの来訪者を惹きつけているが、住民全員が近代遊郭の記憶が残る町として注目されることを受け入れているわけではなく、聞き取り調査を行うことは難しかった。今回聞き取りができたのは、先の資料調査地と付き合いのある彼女と出会ったことによる。

子供の頃から父親が妓楼経営者であることは公然とは言えなかった。現在も旧遊郭街としての橋本の歴史に対して複雑な感情を抱いているようだが、雑誌記事のインタビューに応じたり、橋本の町歩きガイドを務め、近代橋本の暮らしぶりを語り伝えている。

本調査で、妓楼経営者側からの知見を得ることができた意義は大きい。今後近代橋本の調査をさらに進めていく上で、貴重な材料となるだろう。

参考文献

竹中友里代「橋本遊郭の遊客と娼妓―遊客帳の分析から―」（『京都府立大学学術調査報告人文』73号、2021年）



写真1 奥西家住宅（2021年6月14日撮影）



写真3 奥西家天秤棒
（2021年6月14日撮影）



写真2 奥西家中庭（2021年6月14日撮影）